

コミュニティハウスひとのま

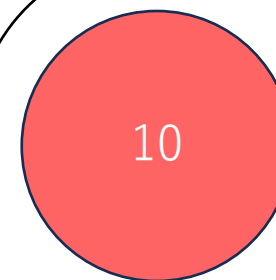
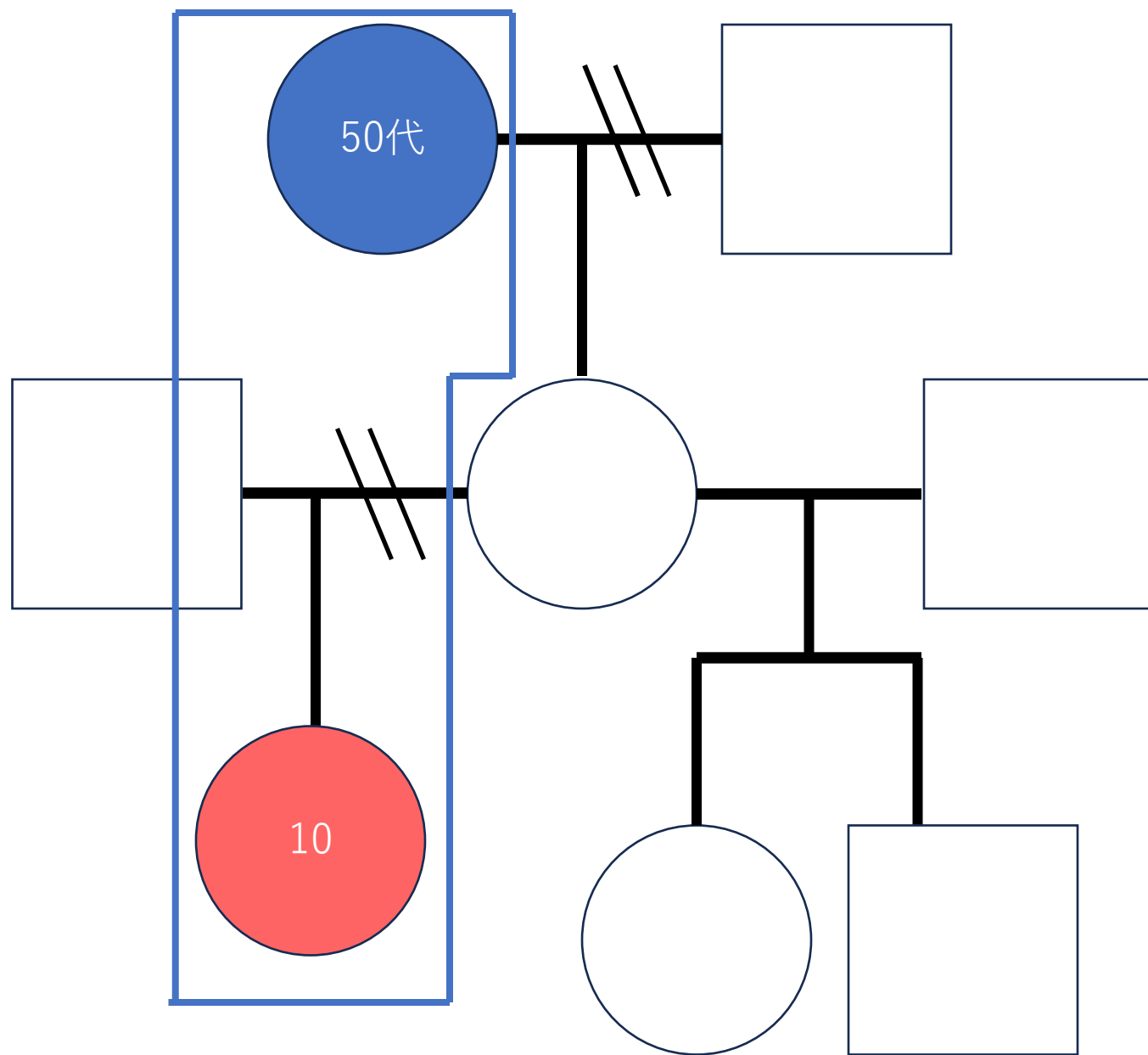
概要：2011年より一軒家を開放。不登校のみならず「誰でも来ていいよ」ということで大人も子どもも来る。

基本月水金曜日に場を開放。

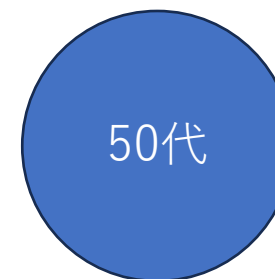
利用者数：およそ15人。内、18歳以下の子どもは10人前後。

※月水金曜日

主な活動内容：特にプログラムやカリキュラムはなし。基本子どももの「やりたい」ことには前向きに取り組む。



小4女子。実母は出産後すぐに他県へ。以降、祖母に育てられる。



統合失調症。解離性障害。症状が出ると希死念慮。リストカット、ODにおよぶことも。

収入は祖母の精神の年金、作業所の収入、子どもの手当。⇒**生活困窮**

祖母の不調時は小学生の子が面倒を見る。
⇒**ヤングケアラー**

そんなこんなので学校どころじゃない。⇒**不登校**

小1の時、祖母リストカットにつき救急車を呼ぶ。
その時に市役所、児相は把握。

本人・祖母ともに、

「大丈夫」

そこからしばらく、「把握はすれども手が出せず」という状況が続く。

小4になった時、「不登校」として、ひとのまへ。

※子どもの居場所だけでなく、困窮者支援などもあったから尚のこと繋がりがやすかった。

そこから、安心して過ごす時間が増えたこともあり、ようやく

「大丈夫じゃない」

そこから一気に支援の歯車が噛みあう。

安心安全な場所だからこそ拾える声がある。「何をする」ではなく、「ただいれる」そんな場所であれることを心がけている。

◆利用者支援における課題

親が学校への不満を口にするのがとても多く感じる。

気持ちはわからないではないが、同調はし過ぎないようにしている。

ただ親の中には耳障りのいいことしか聞きたくない人も少なくない。

それよりも「子どもの将来の選択肢」が多くなるように心がけたい。

◆人材確保・育成

予算があれば人を確保するのは容易だと思うが、予算を目当てにくる人材が安心安全な場所をつくれるかという疑問符が付く。

※福祉も事業化を目的とすると変なところの参入が増えた。そうなってほしくない。

◆学校との連携で感じる課題

フリースクール等に理解が深い学校もあれば、「子どものことは学校で」と学校で完結させようとする学校もあり、連携のしやすさの格差が激しい。

◆他団体とのネットワークに関する要望

必要な時に「ゆるやかに」繋がれるネットワークが重要だと思う。
昨年度実施したような、いろんな居場所が一堂に会するような機会が増えるといいのではないかと思う。

◆行政に期待する支援

学校現場とフリースクール等の民間団体の距離を縮めてくれる働きを期待したい。

○公も民も関係なくいろんな角度から「子どもの未来をどう守るか」を一緒に考えられるといいですね。